

2020年代のロシアを見通す

東京大学先端科学技術研究センター特任助教

小泉 悠
いずみ ゆう

- *プーチンの任期延長を決めた憲法改正
- *組み込まれた院政シナリオ
- *反体制派活動家ナバリヌイ氏の実像
- *プーチン人気を支える世代事情
- *対口批判を陰謀視するプーチン
- *圧力強めるバイデン政権との関係
- *向こう10年、西側との軋轢続く
- *政経両面で対中接近が進む
- *プーチンが求める日本のフィンランド化
- *過去にもあった米ロの人権外交での相互応酬



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は、3回目になると思いますが、小泉先生

生においでいただきました。1982年のお生まれで、早稲田大学をご卒業後、民間企業にお勤めの後、研究生活をどうしてもしたいということでお戻りになられ、現在は東大の先端科学技術研究センターにお勤めでございます。

ロシア問題は定期的には取り上げてまいりましたが、コロナの影響で過去1年ぐらいはロシアの情報はいつにも増して少なくなっております。一方で、プーチン政権の強権的な体質が一段と強まって、さまざまな事件が起きていくということ、今日は改めてロシアの現状について小泉先生から詳しくお話をいただきたいと思います。

それでは小泉先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

プーチンの任期延長を決めた憲法改正

小泉 ただいまご紹介にあずかりました、東大先端研の小泉でございます。本日はよろしく願いました。

私が前回ここでお話させていただいたのは2年ぐらい前ですかね。その時は2019年、2010年代のいちばん最後に私のロシアに関する見方などをお話ししたと記憶しています。それから2年経ちまして今は2021年4月です。2020年代が始まってちょっと経ったところです。2年分のアップデートと、2020年代というスパンで考えた場合に、ロシア